

北野病院形成外科専門研修プログラム

(目 次)

1. 北野病院形成外科専門研修プログラムについて
2. 形成外科専門研修はどのように行われるのか
3. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得
5. 学問的姿勢について
6. 医師に必要なコアコンピテンシー，倫理性，社会性などについて
7. 施設群による専門研修プログラムおよび地域医療についての考え方
8. 専門研修プログラムの施設群について
9. 施設群における専門研修コースについて
10. 専門研修の評価について
11. 専門研修管理委員会について
12. 専門医の就業環境について
13. 専門研修プログラムの改善方法
14. 修了判定について
15. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと
16. Subspecialty 領域との連続性について
17. 形成外科研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム研修の条件
18. 専門研修プログラム管理委員会
19. 専門研修指導医
20. 専門研修実績記録システム，マニュアル等について
21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）について
22. 専攻医の採用と修了

1. 北野病院形成外科専門研修プログラムについて

1) 北野病院形成外科専門研修プログラムの目的

形成外科は臨床医学の一端を担うものであり、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより形態および機能を回復させ患者の Quality of Life の向上に貢献する外科系専門分野です。

形成外科専門医制度は形成外科専門医として有すべき診断能力の水準と認定のプロセスを明示するものであり、専門研修プログラムは医師として必要な基本的診断能力（コアコンピテンシー）と形成外科領域の専門的能力、社会性、倫理性を備えた形成外科専門医を育成することを目的としています。

2) 形成外科専門医の使命

形成外科専門医は形成外科領域における幅広い知識と練磨した技術を習得することはもちろん同時に医学発展のための研究マインドを持ち、社会性と高い倫理性を備えた医師となり標準的医療を安全に提供し国民の健康と福祉に貢献できるよう自己研鑽する使命があります。

上記目的と使命が達成できるように、専門研修プログラムでは基幹施設と連携施設の病院群で指導医のもとに研修が行なわれます。専門研修プログラムでは外傷、先天異常、腫瘍、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、難治性潰瘍、炎症・変性疾患、美容外科などについて研修することができます。

研修の一部には基礎系大学院を組み入れることもできます。また、Subspecialty 領域専門医の研修準備をすることもできるよう配慮しています。更に、専門研修プログラムでは医師としての幅が広げられるよう臨床現場から見つけ出した題材の研究手法、論理的な考察、統計学的な評価、論文にまとめ発表する能力の育成を行います。専門研修プログラム終了後には専門知識と診療技術を習得し他の診療科とのチーム医療を実践できる能力を備えるとともに社会性と高い倫理性を持った形成外科専門医となります。

2. 形成外科専門研修はどのように行われるのか

1) 研修段階の定義

形成外科専門医は初期臨床研修の2年間と専門研修（後期研修）の4年間の合計6年間の研修で育成されます。

- ・ 初期臨床研修 2 年間に自由選択により形成外科研修を選択することができますが、

この期間をもって全体での6年間の研修期間を短縮することはできません。

- 専門研修の4年間で医師として倫理的・社会的に基本的な診療能力を身につけると、日本形成外科学会が定める「形成外科領域専門研修カリキュラム」(資料MP-1参照)にもとづいて形成外科専門医に求められる専門技能の修得目標を設定します。それぞれの年度の終わりに達成度を評価したのち専門医として独立し医療を実践できるまでに実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 専門研修期間中に大学院へ進むことは可能です。臨床医学コースを選択して、臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修として扱われます。詳細は24頁注記に規定されています。
- Subspecialty 領域専門医によっては形成外科専門研修を修了し専門医資格を修得した年の年度初めに遡って、Subspecialty 領域研修の開始と認める場合があります。
- 専門研修プログラムの終了判定には経験症例数が必要です。日本形成外科学会専門医制度が定める研修カリキュラムに示されている研修目標および経験すべき症例数を参照してください。(以下の表を参照)

		経験症例数	経験執刀数
I 外傷	上肢・下肢の外傷	25	3
	外傷後の組織欠損(2次再建)	0	0
	顔面骨折	10	3
	顔面軟部組織損傷	20	2
	頭部・頸部・体幹の外傷		
	熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷	5	2
	小計	60	10
II 先天異常	頸部の先天異常		
	四肢の先天異常	5	2
	唇裂・口蓋裂	5	0
	体幹(その他)の先天異常		
	頭蓋・顎・顔面の先天異常	5	2
	小計	15	4
III 腫瘍	悪性腫瘍	5	0
	腫瘍の続発症		
	腫瘍切除後の組織欠損(一次・二次再建)	10	2
	良性腫瘍	75	16
	小計	90	18
IV 瘢痕拘縮・ケロイド	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	15	3
	小計	15	3
V 難治性潰瘍	その他の潰瘍(下腿・足潰瘍を含む)	20	3
	褥瘡	5	0
	小計	25	3
VI 変性疾患・炎症疾患	炎症・変性疾患	10	1
	小計	10	1
VII 美容外科	手術		
	処置(非手術、レーザーを含む)		
	小計		
VIII その他	その他(眼瞼下垂、腋臭症)	5	1
	小計	5	1
指定症例の総計		220	40
自由選択枠		+80	+40
総合計症例数		300	80

	月		火		水		木		金		土(第1,3週)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
病棟回診	●				●				●			
一般外来	●		●		●		●		●		●	
特殊外来(血管腫)	●(隔週)								●			
特殊外来(リンパ浮腫)	●(隔週)											
特殊外来(美容皮膚)			●(隔週)		●(隔週)		●(隔週)					
特殊外来(顔面神経麻痺)							●(隔週)					
手術	●		●	●	●	●	●	●				
カンファランス、抄読会										●		

2) 年次毎の専門研修計画

専攻医の研修は毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・修得目標の目安を示します。

- ・ 専門研修1年目(SR1)では一般的な医師としての基本的診療能力および形成外科の基本的知識と基本的技能の修得を目標とします。具体的には、医療面接・記録を正しく行うこと、診断を確定させるための検査を行うこと、局所麻酔方法、外用療法、病変部の固定方法、理学療法の処方を行うことなどを正しく行えるようになることを目標とします。さらに学会・研究会への参加およびe-learningや学会が作成しているビデオライブラリーなどを通して自発的に専門知識や技能の修得を図ります。形成外科が担当する疾患は種類が多岐にわたり頻度があまり多くない疾患もあるため臨床研修だけでなく著書や論文を通読して幅広く学習する必要もあります。
- ・ 専門研修2年目(SR2)では、専門研修1年目研修事項を確実にこなせることを前提に形成外科の手術を中心とした基本的技能を身につけていきます。研修期間中に 1) 外傷 2) 先天異常 3) 腫瘍 4) 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド 5) 難治性潰瘍 6) 炎症・変性疾患などについて基本的な手術手技を習得します。
- ・ 専門研修3年目(SR3)ではマイクロサージャリーやクラニオフェイシャルサージャリーなどより高度な技術を要する手術手技を習得します。また、学会発表や論文作成を行うための基本的知識を身につけます。
- ・ 専門研修4年目(SR4)では3年目までの研修事項をより深く理解し自分自身が主体となって治療を進めていけるようにします。さらに、再建外科医として他科医師と協力の上、治療する能力を身につけます。また、言語・音声・運動能力などのリハビリテーションを他の医療従事者と協力の上指示・実践する能力を習得します。

3) 研修の週間計画および年間計画

基幹施設(北野病院)の研修医1名の週間予定を例として示します。

	月		火		水		木		金		土(第1,3週)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
病棟回診	●				●				●			
一般外来	●		●		●		●		●		●	
特殊外来(血管腫)	●(隔週)								●			
特殊外来(リンパ浮腫)	●(隔週)											
特殊外来(美容皮膚)			●(隔週)		●(隔週)		●(隔週)					
特殊外来(顔面神経麻痺)							●(隔週)					
手術	●		●	●	●	●	●	●				
カンファランス、抄読会									●			

(基幹施設・連携施設のカンファレンススケジュール)

基幹及び連携施設において開催されている各種カンファレンススケジュールです。症例検討会では外来や入院患者の臨床経過、手術患者の術式や術後経過を検討します。抄読会では形成外科に関連した洋雑誌より論文を選び発表を行います。学会発表のための予演会では上級委の指導を受けながら発表内容を検討します。専攻医は学術誌だけでなくインターネットなどを利用して最新の情報検索を行います。

- 4月 症例検討会, 学会予演会, 学位論文経過報告, 専攻研修報告
- 5月 症例検討会, 学会予演会, 関連施設報告
- 6月 症例検討会, 学会予演会, 年度下半期人事発表
- 7月 症例検討会, 学会予演会, 執筆中の論文報告
- 8月 症例検討会, 学会予演会, 執筆中の論文報告
- 9月 症例検討会, 学会予演会, 専門医症例発表会, 関連施設報告
- 10月 症例検討会, 学会予演会, 学位論文経過報告, 専攻研修報告
- 11月 症例検討会, 学会予演会, 執筆中の論文報告
- 12月 症例検討会, 学会予演会, 執筆中の論文報告
- 1月 症例検討会, 学会予演会, 関連施設報告, 年度上半期人事発表
- 2月 症例検討会, 学会予演会, 専門医症例発表会, 関連施設報告
- 3月 症例検討会, 学会予演会, 執筆中の論文報告

(専門研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール)

- 4月 SR1: 研修開始。研修医および指導医に提出用資料の配布。
SR2・SR3・SR4・研修終了予定者: 前年度の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を提出
指導医・指導責任者: 前年度の指導実績報告用紙の提出
日本形成外科学会学術集会および春期学術講習会への参加
- 8月 研修終了予定者: 専門医申請書類請求開始 (10月に締め切り。詳細は要確認)
- 10月 SR2・SR3・SR4: 研修目標達成度評価報告用紙と経験症例報告用紙の提出 (中間報告)
日本形成外科学会基礎学術集会および秋期学術講習会への参加

11月 研修終了予定者：専門医書類選考委員会の開催

12月 専門研修プログラム管理委員会の開催

1月 研修終了予定者：専門医認定審査（筆記試験，面接試験）

3月 それぞれの年度の研修終了

3. 専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

基幹施設である北野病院では医学研究所を併設しているため基礎研究も可能です。また、腫瘍や先天異常疾患やレーザー照射など美容診療も行っているため形成外科に関するあらゆる疾患を学ぶことができます。連携施設でも研修することによりそれぞれの特徴を生かした症例や手技を広く学ぶことができます。

（当科の特徴）

1. 乳房や頭頸部再建やフットケアなどのチーム医療

複数の診療科と合同で治療を行うチーム医療において当科は再建外科としての重要な役割を担ってきました。乳癌手術後の乳房再建をはじめ頭頸部領域では耳鼻科、脳外科、食道外科と協力して悪性腫瘍の治療を行っております。他科や地域医療と連携が必要なフットケアにも力を入れています。

2. 顔面神経麻痺外来

専門外来を併設し神経移植や遊離筋弁移植による治療を始めあらゆるタイプの顔面神経麻痺治療に対応できる体制を整えています。

3. リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合

顕微鏡を用いてリンパ管と細静脈の吻合を行うリンパ管細静脈吻合術はスーパーマイクロサージェリー技術を用いて行っております。乳癌や婦人科疾患の手術後や外傷などで発症する上肢や下肢のリンパ浮腫に対して手術が行われ院内だけでなく他院からの紹介も多く良好な成果を上げています。また専任看護師によるフットケア外来も併設され積極的な保存的治療にも取り組んでいます。

5. レーザー治療

3 台のレーザー機器を駆使してあざ治療からしみ脱毛などの美容的治療まで幅広く行っ

ています。美容皮膚外来を開設しており形成外科領域と美容領域の皮膚疾患を広くカバーできるように体制を整えています。

6. 血管腫治療

莓状血管腫や単純性血管腫に対するレーザー治療、海綿状血管腫や動静脈奇形（AVM）に対する手術など、血管腫の種類に応じた治療を行っています。血管腫専門外来も併設しております。

7. 救急センターと集学的治療

切断指（肢）や顔面外傷、熱傷など専門的な治療が求められる症例を受け入れています。当科ではそのような症例に対しても対応できるよう救急センターと連携をとって治療を行っています。

また、専門研修プログラムでは地域医療の研修が可能です。具体的な到達目標を以下に示します。

1) 専門知識

専攻医は専門研修プログラムに沿って 1) 外傷 2) 先天異常 3) 腫瘍 4) 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド 5) 難治性潰瘍 6) 炎症・変性疾患 7) 美容外科について広く学ぶ必要があります。専攻医が習得すべき年次ごとの内容については資料 1 を参照してください。

2) 専門技能

形成外科領域の診療を①医療面接②診断③検査④治療⑤偶発症に留意して実施する能力の開発に務める必要があります。それぞれの具体的内容、年次ごとの内容については資料 MP-1 を参照してください。

3) 経験すべき疾患・病態

資料 MP-1 を参照

4) 経験すべき診察・検査

資料 MP-1 を参照

5) 経験すべき手術・処置

資料 MP-1 を参照

6) 地域医療の経験

地域医療の経験を必須とします。日本赤十字社 和歌山医療センターには指導医がいるため 3 か月以上の勤務も可能です。過疎地域の医療施設にて地域医療を学ぶことによりその地域特有の病態や病院連携について理解し実践します。その内容については以下の通りです。

- ・ 当直業務における時間外患者や急患の対応
- ・ 形成外科におけるプライマリケアの実践
- ・ 褥瘡の在宅治療
- ・ 広範囲熱傷や顔面多発外傷など重度外傷における医療連携
- ・ 開業医との病診連携や講演会などでの交流
- ・ 講演などによる地域医療における形成外科についての情報発信
- ・ その他

4. 各種カンファランスなどによる知識・技能の習得

- ・ 基幹施設および連携施設それぞれにおいて医師および看護スタッフによる治療および管理方針の症例検討会を行います。専攻医はその場で積極的に意見を述べ上級医だけでなく同僚や後輩の意見を聞くことにより具体的な治療方法や管理方法を自ら考えていくことができるようにします。
- ・ 他科との合同カンファランス頭頸部腫瘍の治療に対する耳鼻科とのカンファランスや乳がん治療における乳腺外科とのカンファランスなどそれぞれの疾患に関わる他科との協力のもと治療を進める課程を学んでいきます。
- ・ 複数の臓器にわたる疾患の症例、内科疾患の合併を有する症例、まれであるため標準治療の確立されていない症例などに対し各科医師との合同カンファランスを行っています。
- ・ 基幹施設と連携施設による症例検討会：まれな症例や検討を要すると判断された症例などについては施設間による合同カンファランスによって症例の検討を行います。
- ・ 手術手技をトレーニングする設備、教育 DVD、学会が提供するインターネット上のコンテンツなどを用いて積極的に手術手技を学びます。日本形成外科学会の学術集会（特に学術講習会）、日本形成外科学会地方会、日本形成外科学会が承認する関連学会、日本形成外科学会が提供する e-learning など下記事項を学んでいきます。各病院内で実施される講習会にも参加してください。

- ☆標準的医療および今後期待される先進的医療
- ☆医療安全，院内感染対策
- ☆指導法，評価法などの教育技能

5. 学問的姿勢について

指導医は専攻医が研修目的を達成できるよう指導しますが、専攻医も自らの診療内容を常にチェックし、研鑽、自己学習し知識を補足することが求められます。知識として Evidence-Based Medicine（以下 EBM）は当然その基礎となります。専門研修プログラムでは症例に関するカンファレンスが設定されていますがこれに積極的に参加し呈示と討論ができるようにしてください。専攻医は受け持ち患者についての疑問を提示し、同僚や指導医から提示された疑問については EBM に沿って批判的吟味を行う姿勢が重要です。次に日常の診療から疑問に思ったことを研究課題とし参考文献を資料として研究方法を組み立て、結果をまとめ論理的統計学的な正当性を持って評価考察する能力を養うことが大切です。そして、専攻医は学会に積極的に参加しその成果を発表する姿勢を身に付けてください。

専門研修プログラム終了後に形成外科領域専門医資格を受験するためには以下の条件を充足する必要があります（詳細は 24 頁注記を参照）。

- 1) 6 年以上の日本国医師免許証を有するもの。
- 2) 臨床研修 2 年の後学会が推薦し機構の認定を受けた専門研修基幹施設あるいは専門研修連携施設において通算 4 年以上の形成外科研修を終了していること。ただし専門研修基幹施設での最低 1 年の研修を必要とします。
- 3) 研修期間中に直接関与した 300 症例（うち 80 症例以上は術者）および申請者が術者として手術を行った 10 症例についての所定の病歴要約の提出が必要です。
- 4) 日本形成外科学会主催の講習会受講証明書を 4 枚以上有すること。
- 5) 少なくとも 1 編以上の形成外科に関する論文を筆頭著者として発表しているもの。（発表誌は年 2 回以上定期発行され、査読のあるものに限りま）

また、専門医資格の更新には診療実績の証明、専門医共通講習、診療領域別講習、学術業績・診療以外の活動実績など 5 年間に合計 50 単位の取得が求められます。

6. 医師に必要なコアコンピテンシー，倫理性，社会性などについて

専攻医は医師として自己管理能力を身につけ生涯にわたり基本的診療能力（コアコンピテンシー）を涵養する努力が必要です。基本的診療能力には領域の知識・技能だけでなく態度や倫理性、社会性が含まれます。指導医と共にプロフェッショナルを目指しましょう。以下に専門研修プログラムでの具体的な目標と方法を示します。

1) 医師としての責務を自律的に果たし患者に信頼されるコミュニケーション能力

領域における専門的知識・技能を身につけ診断能力を高めることはプロフッショナルとして当然です。さらに疾患について説明できるだけでなく相手の立場になって聞くことができ疑問に答えられなければ信頼を得ることは出来ません。分からないことは誠意をもって調べて回答しましょう。形成外科領域では治療方法が手術となることが多くその必要性，危険性，合併症とその対策、予後、術後の注意点などについて医師や患者・家族がともに納得できるようなインフォームドコンセントについて指導医のもとで学習し実践します。また治療経過や結果についての的確に把握し患者に説明できなければなりません。治療期間や治療費についても精通しておく必要があります。

2) 患者・社会との契約を理解し実践できる能力

健康保険制度を理解し，保険医療をメディカルスタッフと協調して実践します。そのためには，医療行為に関する法律を理解し遵守しなければなりません。それらに基づきすべての医療行為や患者に行った説明などを書面化し管理しなければなりません。診断書・証明書などを作成や管理することも重要です。また，医薬品や医療用具による健康被害の発生防止の理解と適切な行動が求められます。これらのすべてにおいて守秘義務を果たしプライバシーへの配慮ができなければなりません。原則として家族に話す内容は事前に患者の同意を得ておくべきです。

3) 医療安全を理解し，チーム医療が実践できる能力

保存療法、手術療法、その他医療行為のすべてにおいて医療安全の重要性を理解し事故防止や事故後の対応がマニュアルに沿って実践できることが求められます。専門研修プログラムでは施設における医療安全に関する講習会や感染対策に関する講習会にそれぞれ最低1年に2回は出席することが義務づけられています。これらの講習会は，日本形成外科学会でも開催されており積極的に参加し日常の診療にフィードバックすることが大切です。また，チーム医療が多いことは形成外科の大きな特徴であり他の医療従事者と良好な関係を構築し協力して患者の診療にあたるのが重要です。臨床の

現場から疑問に思うことや今社会が医療に求めていることを自ら感知し研究する姿勢が大切であり、その態度が後輩の模範となるよう努めます。チーム医療の一員として指導医のもとに患者を受け持ち、学生や後輩医師の教育や指導も積極的に行います。もちろん専攻医自身もチームの一員として様々なメンバーから指導を受けることができます。

4) 問題対応能力と提示できる能力

指導医は専攻医が専門医として独り立ちできるよう努めますが独り立ちとは通り一遍のことができるようになるということではありません。臨床上の疑問点を解決するための情報を自ら収集および評価し患者への対応を実践します。EBMは当然その基礎となります。専門研修プログラムでは症例に関するカンファレンスが設定されていますがこれに積極的に参加し呈示と討論ができるようにしてください。専攻医は受け持ち患者についての疑問を提示し同僚や指導医から提示された疑問についてはEBMに沿って批判的吟味を行うことが重要です。また、臨床研究や治験の意義を理解し参加する姿勢も大切です。

7. 施設群による専門研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは北野病院形成外科を基幹施設とし地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。施設群で育成することの意義は各施設によって分野や症例数が異なるため専攻医が専門研修カリキュラムに沿って十分に研修を行うことです。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。このことは専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。また、まれな疾患や治療困難例が中心となりCommon Diseaseの経験が不十分とならないように地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得できる上医師としての基礎となる課題探索能力や課題解決能力は一つ一つの症例について深く考え広く論文収集を行い症例報告や論文としてまとめることで身につけていきます。このような理由から、施設群で研修を行うことが非常に大切です。北野病院形成外科研修プログラムのどのコースに進んでも指導内容や症例経験数に不公平が無いように十分に配慮します。

施設群における研修の順序や期間等については専攻医を中心に考え個々の形成外科専攻医の希望と研修進捗状況や各病院の状況、地域の医療体制を勘案して北野病院形成外科専門研修プログラム管理委員会が決定します。

2) 地域医療の経験

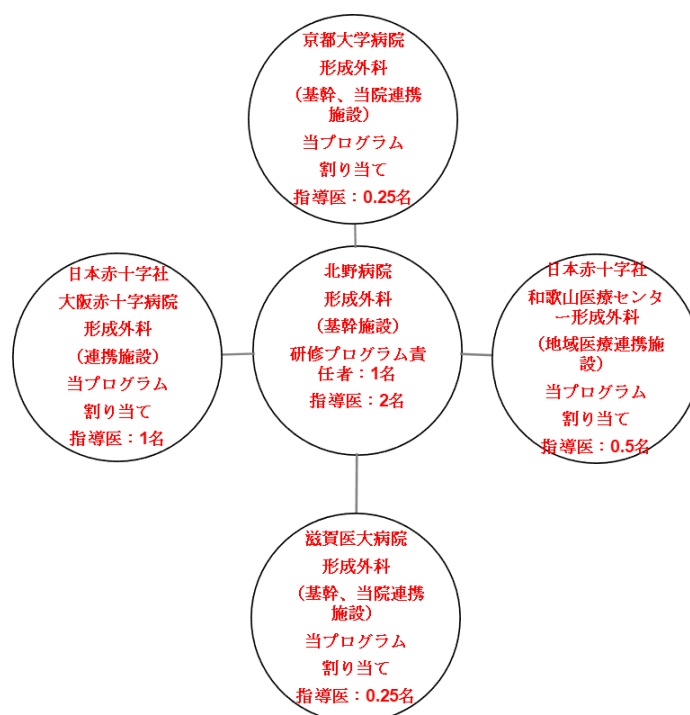
診断名からだけではなく患者の社会的背景や希望も考慮に入れた上で治療方針を選択し患者に医療を提供する必要があります。その点において地域の連携病院では責任を持って多くの症例の診療にあたる機会を経験することができます。形成外科における慢性的な疾患の治療においては地域医療との連携が不可欠となります。

8. 専門研修プログラムの施設群について

(専門研修施設群)

北野病院形成外科と連携施設及び地域医療施設により専門研修施設群を構成します。

北野病院形成外科グループ



(専門研修基幹施設)

北野病院形成外科が専門研修基幹施設となります。

(研修プログラム責任者：1名，指導医：2名，症例数：約961例 按分後約787例)



昭和 3 年、当時大阪の実業界で活躍されていた篤志家のご寄附により京都帝国大学医学部に付属した臨床医学研究が可能な病院として大阪に設立された病院です。乳癌術後の乳房再建では人工物（シリコンインプラント）を使用した再建を保険収載前から行ってきた実績があります。自家組織を用いた乳房再建も多数行っています。脳神経外科や耳鼻咽喉科と連携した頭頸部再建ではマイクロサージャリーを用いた血管吻合による組織移植も行っています。また、リンパ浮腫患者に対し手術を含めた複合的理学療法を行える関西では数少ない病院の一つです。さらに、種々のレーザー機器を用いてあざやシミの治療・脱毛治療などの保険外診療も実施している数少ない総合病院です。北野病院は、このように形成外科全般の研修が可能な施設です。

（専門研修連携施設）

当プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。

各施設とも京都大学形成外科研修プログラムに属しているため症例の按分を行っております。北野病院グループ全体の症例数は約 1861 例で症例数は十分な余裕があります。当プログラムに割り当てられる按分後の指導医数は、施設群全体で 4 名となります。

- ・ 京都大学附属病院形成外科（指導医：0.25 名，症例数：約 1245 例 按分後 52 例）



昭和 52 年に日本の国立大学で 2 番目に形成外科が設置された病院です。口唇口蓋裂、小耳症、多合指（趾）症などの先天性疾患の治療が多いのが特色です。基礎研究も活発に行われており日本で初めて細胞を使用した製品として承認された「自家培養表皮」を用いた先天性巨大色素性母斑治療をおこなっております。カンファレンスなどで基礎研究に触れることが可能です。

- ・ 滋賀医科大学附属病院形成外科（指導医：0.25 名，症例数：201 例 按分後 25 例）



2016 年 10 月より独立した診療科で 2019 年 4 月より講座となりました。乳がん切除後の乳房再建（自家組織/シリコン含む）や唇顎口蓋裂、多合指（趾）症などの先天性疾患の症例数は増加しています。中枢及び末梢神経再生、皮膚難治性潰瘍に対する再生や脂肪の再生などの基礎研究も行っております。

- ・ 日本赤十字社 大阪赤十字病院（指導医：1 名，症例数：約 1025 例 按分後 514 例）



阪神間で最も早くから形成外科診療を始めた医療機関の 1 つです。外傷、難治性潰

瘍やケロイドの症例も豊富で形成外科医にとり重要な創傷治癒の過程を十分に学ぶことができます。また、唇顎口蓋裂などの顔面先天異常に加え手足の先天異常、臍ヘルニア手術も多数行われております。頭頸部領域や乳房再建などの他科との合同手術も多数あります。高周波メスを用いたホクロ、イボの治療やボトックス注射による原発性腋窩多汗症治療も行っており幅広い形成外科領域の診療に対応しています。

- ・ 日本赤十字社和歌山医療センター（指導医：0.5名、症例数：約963例 按分後482例）：地域医療研修可



明治38年に日本赤十字社和歌山支部病院として発足した救急医療、高度医療やがん医療を行う和歌山市の中核病院ですが、地域連携医療研修を行うことも可能です。2019年8月より小児形成外科外来を新設し口唇口蓋裂をはじめとする顔面の先天異常にも力を入れております。また、顔面骨骨折、顔面軟部組織損傷などの外傷や熱傷の症例も多数あります。頭頸部領域や乳房再建手術を始めとした他科との合同手術の症例も豊富な日本形成外科学会認定施設です。

- ・ 医療法人青空会 かもがわクリニック

この施設は研修基幹施設から地下鉄で1駅ほどの距離にあり、地域に密着した医療を展開しています。

熱傷や皮膚腫瘍の切除、眼瞼下垂症、多汗症に対するボトックス注射の保険治療に加え医療用レーザーを用いてアンチエイジング治療などの自費治療も行っております。

全身麻酔が望ましい症例や、入院加療を要する症例では紹介、逆紹介と基幹施設と密接に連携した医療を行っており地域密着のクリニック側からの病診連携を研修できます。

(専門研修施設群の地理的範囲)

当プログラムの専門研修施設群は大阪市、京都市、大津市、和歌山市です。施設群には大学病院と地域中核病院が含まれます。

(専攻医受入数)

施設群全体で症例のデータベースをもとに専攻医の教育可能な人数を算出し濃密な研修を受けていただくために4名までを1年間に教育可能な人数と考えています。(資料MP-3参照)。全体の症例数は今後も増加していく見込みです。現時点でも十分であるためより多くの症例を経験することができます。

9. 施設群における専門研修コースについて

形成外科領域専門研修カリキュラムでは、到達目標の達成時期や症例数を1年次から4年次まで項目別で設定しています。しかし実際には各施設の症例数や人事異動などでその時期が前後すると予測されます。そのため設定した年次はあくまで目安であり4年次までにすべての到達目標を達成することを最終目標(資料MP-1~4参照)とした上で基幹施設と連携施設で連携しながら専門研修コースを設定していく必要があります。(資料MP-5参照)

1) 各年次の目標

(専門研修1年目)

医療面接・記録: 病歴聴取を正しく行い診断名の想定・鑑別診断を述べることができる。
検査: 診断を確定させるための検査を行うことができる。
治療: 局所麻酔方法、外用療法、病変部の固定法、理学療法の処方を行うことができる。
基本的な外傷治療, 創傷治療を習得する。
偶発症: 考えられる偶発症の想定, 生じた偶発症に対する緊急的処置を行うことができる。

(専門研修2年目)

専門研修1年目研修事項を確実にこなせることを前提に形成外科の手術を中心とした基本的技能を身につけていく。研修期間中に 1) 外傷 2) 先天異常 3) 腫瘍 4) 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド 5) 難治性潰瘍 6) 炎症・変性疾患 7) その他 について基本的な手術手技を習得する。

(専門研修3年目)

マイクロサージャリー、クラニオフェイシャルサージャリーなどより高度な技術を要する手術手技を習得する。また、学会発表・論文作成を行うための基本的知識を身につける。

(専門研修4年目以降)

3 年目までの研修事項をより深く理解し自分自身が主体となって治療を進めていけるようにする。さらに、再建外科医として他科医師と協力の上治療する能力を身につける。また、言語、音声、運動能力などのリハビリテーションを他の医療従事者と協力の上、指示、実施する能力を習得する。

2) 4 年間で手術経験数および執刀数

基幹施設と連携施設を合わせた研修施設群全体について専攻医 1 名あたり 4 年間で最低 300 例（内執刀数 80 例）の経験（執刀）症例数を必要とします。（手術内容の内訳は資料 3 を参照）

3) 専門研修ローテーション

当施設群ですべての形成外科専門医カリキュラムを達成することを目標にします。地域連携医療は日本赤十字社和歌山医療センターにて行い、万遍なく症例を経験するように病院間での異動を行っていきます。

（ローテーション例①）

専門研修 1 年目：北野病院（1 年）
↓
専門研修 2 年目：京都大学病院形成外科（1 年）
↓
専門研修 3 年目：日本赤十字社和歌山医療センター（1 年）
↓
専門研修 4 年目：日本赤十字社大阪赤十字病院（1 年）

（ローテーション例②）

専門研修 1 年目：日本赤十字社大阪赤十字病院（1 年）
↓
専門研修 2 年目：日本赤十字社和歌山医療センター（1 年）
↓
専門研修 3 年目：滋賀医科大学附属病院形成外科（1 年）
↓
専門研修 4 年目：北野病院形成外科（1 年）

- ・ 専攻医は週 1 回のカンファランス（症例検討会）に参加し、北野病院の症例や連

携施設の症例を検討することによって、形成外科のあらゆる分野の知識や技術を幅広く習得することができます。

- ・ 北野病院、京都大学病院、滋賀医科大学病院では、臨床だけでなく基礎研究に携わることによって、早期からリサーチマインドを育てていきます。また、症例報告などの論文作成を行い、論文作成能力の向上を図っていきます。

10. 専門研修の評価について

1) 専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修と共に専門研修プログラムの根幹となるものです。専門研修の1年目から4年目までのそれぞれに、基本的診療能力と形成外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定しその年度の終わりに達成度を評価します。このことにより基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていけるように配慮しています。

- ・ 指導医は日々の臨床の中で専攻医を指導します。
- ・ 専攻医は経験症例数・研修目標達成度の自己評価を行います。
- ・ 指導医も専攻医の研修目標達成度の評価を行います。
- ・ 医師としての態度についての評価には、自己評価に加えて、指導医による評価、施設の指導責任者による評価、看護師長などの他職種による評価が含まれています。
- ・ 専攻医は毎年9月末（中間報告）と3月末（年次報告）に所定の用紙を用いて経験症例数報告書及び自己評価報告書を作成し指導医はそれに評価・講評を加えます。「専攻医研修実績フォーマット」（資料MP-6参照）を用いて行います。
- ・ 指導責任者は「専攻医研修実績フォーマット」を印刷し、署名・押印したものを専門研修プログラム管理委員会に提出します。「専攻医研修実績フォーマット」は、6ヶ月に一度、専門研修プログラム委員会に提出します。自己評価と指導医評価、指導医コメントが書き込まれている必要があります。「専攻医研修実績フォーマット」の自己評価と指導医評価、指導医コメント欄は6ヶ月ごとに上書きしていきます。
- ・ 4年間の総合的な修了判定は研修プログラム統括責任者が行います。この修了判定を得ることができてから専門医試験の申請を行うことができます。

2) 指導医のフィードバック法の学習（FD）

指導医は日本形成外科学会が主催する、あるいは日本形成外科学会の承認のもとで主催される形成外科指導医講習会において、フィードバックの方法についての講習を受けます。指導医講習会の受講は、指導医認定や更新のために必須です。

1 1. 専門研修管理委員会について

専門研修基幹施設と各専門研修連携施設の各々において形成外科領域指導医から選任されたプログラム責任者を置きます。専門研修基幹施設においては、各専門研修連携施設を含めたプログラム統括責任者を置きます。

専門研修基幹施設には、専門研修基幹施設と各専門研修連携施設のプログラム責任者より構成される専門研修プログラム管理委員会を置き、プログラム統括責任者がその委員会の責任者となります。専門研修基幹施設は、専門研修プログラム管理委員会を中心として専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行い専攻医の最終的な研修修了判定を行います。

専門研修プログラムには、各連携施設が研修のどの領域を主に担当するか（例えば形成外科一般、小児治療、癌治療、熱傷治療、美容など）を明示し、専門基幹施設が専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医の連携施設での研修計画、研修環境の整備・管理を行います。

専門研修連携施設においては、指導専門医と形成外科領域専門医より構成する専門研修プログラム管理委員会を置き、指導専門医から選任された専門研修プログラム連携施設担当者が委員会の責任者となります。

専門研修基幹施設と各専門研修連携施設の各々において、領域指導医と施設責任者の協力により定期的に専攻医の評価を行い、また専攻医による領域指導医・指導体制に対する評価も行います。これらの双方向の評価を専門研修プログラム管理委員会で検討し、プログラムの改善を行います。

1 2. 専門医の就業環境について

研修施設責任者とプログラム統括責任者は、専攻医の適切な労働環境の整備に努めるとともに専攻医の心身の健康維持に配慮しこれに関する責務を負います。

専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については労働基準法や労働安全衛生法及び学校保健法に準じます。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含めて）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては各研修施設の処遇規定、就業規則に従いますがこれらが適切なものであるかにつき研修プログラム管理委員会がチェックを行います。育児休暇や介護休暇に関しては「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」に準じます。

当直あるいは時間外業務に対しては各研修施設において専門医や指導医のバックアップ

体制を整えます。専攻医の勤務時間は1か月単位の変形労働時間を準用し1か月を平均して1週間あたり40時間の範囲内において定めるものとしますが専門研修を行う施設の実態に応じて変更できるものとします。

1.3. 専門研修プログラムの改善方法

大阪滋賀形成外科専門研修プログラムでは専攻医からのフィードバックを重視して専門研修プログラムの改善を行うこととしています。

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は年次毎に指導医専攻医、指導施設、専門研修プログラムに対する評価を行います。また、指導医も専攻医指導施設や専門研修プログラムに対する評価を行います。専攻医や指導医等からの評価は専門研修プログラム管理委員会に提出され研修プログラム管理委員会は専門研修プログラムの改善に役立てます。このようなフィードバックによって専門研修プログラムをより良いものに改善していきます。

専門研修プログラム管理委員会は必要と判断した場合専攻医指導施設の実地調査および指導を行います。評価にもとづいて何をどのように改善したかを記録し毎年日本形成外科学会及び日本専門医機構に報告します。

2) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

専門研修プログラムに対し学会または日本専門医機構からサイトビジット（現地調査）が行われます。その評価にもとづいて専門研修プログラム管理委員会で研修プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際にはサイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構及び日本専門医機構に報告します。

1.4. 修了判定について

専門研修4年終了時あるいはそれ以降に、専門研修プログラムに明記された達成到達基準を基に研修期間が基準に満たしていることを確認し、知識、技能、態度それぞれについて評価を行い目標の達成度を総括的に把握し専門研修基幹施設の専門研修プログラム管理委員会において総合的に終了判定の可否を決定します。知識、技能、態度のひとつでも欠落する場合は専門研修終了と認めません。

そして専門研修プログラム管理委員会の責任者であるプログラム統括責任者が専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて専攻医の最終的な専門研修修了判定を行い

ます。

1 5. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと

(修了判定のプロセス)

専攻医は「専攻医研修実績フォーマット」と「医師として適正評価シート」(資料 MP-7 参照)を専門医認定申請年の4月末までに専門研修プログラム管理委員会に送付します。専門研修プログラム管理委員会は5月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。専攻医は日本専門医機構の形成外科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行います。

(他職種評価)

専攻医は病棟の看護師長など少なくとも医師以外のメディカルスタッフ 1 名以上からの適正評価も受ける必要があります。

1 6. Subspecialty 領域との連続性について

日本専門医機構形成外科専門医を取得した医師は、形成外科専攻医としての研修期間以後に Subspecialty 領域の専門医のいずれかを取得することが望まれます。現在 Subspecialty 領域の専門医には、日本形成外科学会認定の特定分野指導医として皮膚腫瘍外科指導医、小児形成外科分野指導医、再建・マイクロサージャリー分野指導医があります。また、日本形成外科学会認定の分野指導医として日本創傷外科学会認定の創傷外科専門医、日本頭蓋顎顔面外科学会認定の頭蓋顎顔面外科専門医、日本熱傷学会認定の熱傷専門医、日本手外科学会認定の手外科専門医、日本美容外科学会 (JSAPS) 認定の美容外科専門医がありますが今後拡大していく予定です。

1 7. 形成外科研修の休止・中断, プログラム移動, プログラム研修の条件

- 1) 専門研修プログラム期間のうち出産に伴う 1 年以内の休暇は 1 回までは研修期間にカウントできる。
- 2) 疾病での休暇は 1 年まで研修期間をカウントできる。
- 3) 疾病の場合は診断書を出産の場合は出産を証明するものの添付が必要である。
- 4) 留学, 診療実績のない大学院の期間は研修期間にカウントできない。

- 5) 専門研修プログラムの移動は認定施設認定委員会に申請の上日本専門医機構の承認が必要であり移動前後のプログラム統括責任者と協議した上で決定する。
- 6) その他は、24 頁注記参照のこと。

18. 専門研修プログラム管理委員会

専門研修基幹施設に専門研修基幹施設と各専門研修連携施設のプログラム責任者より構成される専門研修プログラム管理委員会を置き専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理します。

(専門研修プログラム管理委員会の役割と権限)

専門研修プログラム管理委員会は専門研修基幹施設と各専門研修連携施設のプログラム責任者の緊密な連絡のもとに専門研修プログラムの作成やプログラム施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行います。また、各専攻医の統括的な管理（専攻医の採用や中断，専門研修基幹施設や専門研修連携施設での研修計画や研修進行の管理，学習機会の確保，研修環境の整備など）や評価を行います。更に、各専門研修連携施設において適切に専攻医の研修が行われているかにつき各専門研修連携施設を評価して，問題点を検討し改善を指導します。

(プログラム統括責任者)

プログラム統括責任者は専門研修プログラム管理委員会の責任者であり専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・終了判定につき最終責任を負います。またプログラム統括責任者は、専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて専攻医の最終的な研修修了判定を行いその資質を証明する書面を発行します。

(副プログラム統括責任者)

20 名を越える専攻医を持つ場合は，副プログラム統括責任者を置き，副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

(専門研修連携施設での委員会組織)

専門研修連携施設においては、指導専門医と形成外科領域専門医より構成する専門研修プログラム管理委員会を置き指導専門医から選任された専門研修プログラム連携施設担当者が委員会の責任者となります。

専門研修連携施設での委員会の責任者である専門研修プログラム連携施設担当者は、専門研修基幹施設と各専門研修連携施設のプログラム責任者より構成される専門研修プ

プログラム管理委員会の一員として専門研修プログラム管理委員会における役割を遂行します。

専門研修連携施設の専門研修プログラム管理委員会は、専門研修連携施設におけるプログラムの作成・管理・改善を行いまた各専攻医の管理（専門研修連携施設での研修計画や研修進行の管理，学習機会の確保，研修環境の整備など）や評価を行ないます。

19. 専門研修指導医

指導医の基準については、指導医は一定の基準を満たした専門医であり専攻医を指導し評価を行います。

20. 専門研修実績記録システム，マニュアル等について

研修実績および評価の記録については、「専攻医研修実績フォーマット」に研修実績を記載し、指導医による形成的評価，フィードバックを受けます。総括的評価は形成外科研修カリキュラムに則り少なくとも年1回行います。

北野病院形成外科にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

専門研修プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

- ・ 専攻医研修マニュアル
「専攻医研修マニュアル」（資料 MP-8）参照のこと。
- ・ 指導者マニュアル
「指導医マニュアル」（資料 MP-9）参照のこと
- ・ 専攻医研修実績記録フォーマット
「専攻医研修実績フォーマット」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録してください。少なくとも1年に1回は「専攻医研修実績フォーマット」を用いて、医師としての基本姿勢，診療態度、チーム医療、担当した入院患者の疾患、症例、経験すべき症状への対応、経験した手技について形成的自己評価を行ってください。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われます。
- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録
専攻医自身が自分の達成度評価を行い指導医も形成的評価を行って記録します。

少なくとも1年に1回は「専攻医研修実績フォーマット」を用いて医師としての基本姿勢、診療態度・チーム医療、担当した入院患者の疾患、症例、経験すべき症状への対応、経験した手技について形成的評価を行い評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価を付けた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い記録し翌年度の研修に役立たせます。

2 1. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）について

専門研修プログラムに対して、日本形成外科学会または日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価は、専門研修プログラム管理委員会に伝えられ、専門研修プログラムの必要な改良を行います。

2 2. 専攻医の採用と修了

（採用方法）

北野病院形成外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行い、形成外科専攻医を募集します。専門研修プログラムへの応募者は、9月30日までに専門研修プログラム責任者宛に所定の形式の「北野病院形成外科専門研修プログラム応募申請書」（資料MP-10参照）と履歴書を提出してください。申請書は（1）北野病院形成外科のwebsite (<http://www.kitano-hp.or.jp/section/keisei>)よりダウンロード、（2）電話で問い合わせ(06-6312-8845)、（3）e-mailで問い合わせ(yigarashi@kitano-hp.or.jp)、のいずれの方法でも入手可能です。原則として10月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については12月の北野病院形成外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

（研修開始届け）

研修を開始した専攻医は、各年度の4月20日までに「北野病院形成外科専門研修開始届」（資料MP-11参照）を北野病院形成外科専門研修プログラム管理委員会(yigarashi@kitano-hp.or.jp)に提出します。同委員会はその後速やかに開始届を日本形成外科学会に提出し、機構への登録を行います。

（修了要件）

下記注記ならびに日本形成外科学会専門医制度細則を参照のこと。

注記

研修の条件

1. 研修期間

形成外科専門研修は 4 年以上とする。但し義務化された臨床研修期間中の形成外科研修は含まない。この規定は第 98 回日本国医師国家試験合格者以降の者に適用する。それに該当しない者については、これと同等以上の形成外科研修を終了したと専門医認定委員会が認定したものは可とする。ただし大学院生、時短勤務者や非常勤医などの研修期間に関しては、週 32 時間（ただし 1 日 8 時間以内）以上形成外科の臨床研修に携わったものはフルカウントできる。なお、臨床研修が週 32 時間に満たなくとも機構の形成外科領域研修委員会が認めた場合には勤務時間に応じて分数でのカウントもあり得る。研修の実状は当該科の所属長または施設長が責任をもって認定する。なお申請内容に疑義が生じた場合専門委員会で審議することがある。